

活動概要(2018年12月)

① パレスチナにおける農産物の販売促進手法の開発と政府職員への技術移転

これまでの活動を通じて、パレスチナ農業庁職員にはマーケティング関連の知識・技術が不足していることが分かってきた。そこで、第1サイクル対象農家グループに対する普及活動を通じて、1)農家グループによる小売店への直売手法および2)農家グループと農産加工会社・トレーダーとの仲介手法の開発を行い、農業庁職員に対する技術移転を行っている。

1) 農家グループによる小売店への直売手法

第1サイクルの対象農家グループである Frosh Beit Dajan Extension Sub-Group(ナブルス県・野菜農家グループ)に対する普及活動を通じて、パレスチナにおける小売店への直売手法の開発を行っている。いずれは、開発した手法をもとにパレスチナ政府職員に技術移転を行い、他の農家グループに対する普及活動で実用化する方針である。

■ 農産物のマーケティングとブランド化研修のフォローアップ活動の進捗確認(2018/11/14)

2018年に実施した農産物のマーケティングとブランド化研修のフォローアップ活動の進捗をナブルス県農業局普及員と確認した。農家グループは、高品質トマトを「Frosh Fresh」と名付け、他地域のトマトと差別化(ブランド化)して小売店に直売するための準備を意欲的に進めていた。具体的には、①販売先候補の新規開拓(ナブルス県内の小売店等)、②販売方法の検討(高品質トマトの選定・パッケージ方法)③販売促進のための Facebook ページ「Frosh Fresh」の開設である。そこで、農家グループの意見をもとに、Frosh Beit Dajan 地域のトマトの出荷最盛期(12月初旬から2月中旬)に合わせ、小売店で「Frosh Fresh」を直売しながら消費者からの意見を聴取する、テストマーケティングを試験的に実施することとなった。



■ テストマーケティングに関する研修実施と販売先候補の小売店訪問(2018/11/20)

ナブルス県農業局普及員とマーケティング部局員と共同で、農家グループ向けにテストマーケティングに関する技術研修を実施した。その後、販売先候補の小売店を訪問し、テストマーケティング実施への協力を求めた。小売店のニーズとして、①品種(クラスター)、②サイズ(中:150g前後)、③色(赤)、④外観(新鮮で固め、亀裂などの傷みなし)、⑤パッケージ(段ボール:10-15kg)といった情報を入手することができた。小売店の売り場には、従来高品質と低品質トマトが混在して陳列されており、消費者は店頭で高品質トマトを選択して購入するため、低品質トマトが売れ残り、廃棄されている。小売店の品質要件を満たす高品質トマトを予め選定して納品することで、小売店は売れ残りのロスを減らすことができ、農家グループは付加価値化を図ることができる Win-Win 関係の構築が期待できる。



■ 販売促進手法に関する研修実施とテストマーケティングの準備(2018/11/25)

ナブルス県農業局普及員、マーケティング部局員および農家グループ向けに販売促進技術の研修を実施した。パレスチナではほとんど前例のない取り組みであるため、日本の事例から簡単に始められそうなものを中心に説明し、自分たちでできることを考えてもらった。テストマーケティングでは、高品質トマトの要件にもとづき選定した「Frosh Fresh」を、手書きのPOPで他のトマトからの差別化を図るとともに、消費者向けの試食販売と嗜好に関するアンケートを小売店で実施することになった。



■ 小売店での消費者向けテストマーケティング実施(2018/12/2)

小売店において普及員とマーケティング部局員、農家グループメンバーで消費者向けのテストマーケティングを実施した。その結果、10人の消費者(男性:7人、女性:3人)から回答を得ることができ、消費者のトマトに対する嗜好は①均一のサイズと色(ミドルサイズ)(赤色)、②新鮮さと硬さ、③安全である(農薬・植物ホルモンの不使用)、④パレスチナ産という傾向が見られた。



## パレスチナにおける小売店でのテストマーケティングの効果とポイント:

後日の聞き取りで、消費者から小売店に対して高品質トマト「Frosh Fresh」の入荷予定について問い合わせが入り、テストマーケティングを機に農家グループが「Frosh Fresh」だけでなくミニトマト及びキュウリも小売店に直売する取引きが決まった。また、小売店直売用の「Frosh Fresh」については、次写真のとおり、農家グループがテストマーケティングを受け自分たちでさらに消費者の嗜好に近づけた選定を実施したことが分かった。

テストマーケティングはマーケティングの一手段に過ぎず、今後も 農家グループが小売店との良好な取引関係を継続していくために自助努力をしていくことが収益向上には必須である。他方で同時に、本事例のように 生産よりもマーケティングに課題のある農家にとってはテストマーケティングがマーケットにおけるニーズを意識させることができた。また 消費者、農家グループ、小売店の三者がメリットを享受できる仕組みを構築することが重要であることがわかった。



選定なし(黄色いトマトが混じっている)

農家が選定したトマト (テストマーケティング前)



消費者のニーズに応じた選定実施

農家が選定したトマト (テストマーケティング後)



テストマーケティングの効果(消費者・小売店・生産者が win-win となるような仕組みの構築)

### ■ 販売促進のための Facebook ページ「Frosh Fresh」を開設(2018/11/25)

農家グループが自分たちで Facebook ページ「Fresh Frosh」を開設した(下記リンク)。消費者目線でも魅力的なトマトの写真や、自分たちで考えた他地域との差別化をするための説明文などが掲載されている。立ち上げたばかりでコンテンツ不足ではあるが、モチベーションが高まった農家グループが自発的にブランド化(他地域との差別化)や販売促進の取組みを始めたことは意義が大きいと考える。



### 2) 普及員による農家グループと農産加工会社・小売店との仲介手法の開発

パレスチナにおいて、農業収益性をさらに高めるためには、ニッチな市場ニーズに対応する必要がある。そのため、卸売市場ではなく、固有のニーズを持つ農産加工会社・小売店等の相対取引を促進するため、両者をつなぐビジネスマッチングの実施が必要となる。農家自身がそれを行うことは困難であるため、プロジェクトでは、普及員がその役割を持ち、両者の仲介を行っていくことができるよう、手法開発や技術移転を行っている。

### ■ 農産加工会社とのビジネスマッチングの試行(2018/12/11)

トウルカレム県にある農産加工会社(Zeta 社)が、春キュウリの買い付けに関心があるとの情報を得たので、春キュウリを生産している第1サイクルの対象農家グループである Jeftlik Farmer Extension Group(ジェリコ県・野菜農家グループ)を対象にし、モデル的なビジネスマッチングを試行した。農家グループを担当するジェリコ県農業局普及員が、加工会社のあるトウルカレム県農業局普及員と連携しながら、加工会社に連絡をとり、ビジネスマッチングの手配を行った。事前に、交渉における留意点を農家グループと確認し、農家と加工会社が長期的に良好な関係を構築するために、農家と加工会社双方の強みと弱みを確認し、Win-Win となる解決策を探ることが目的であることを合意してもらった。



ビジネスマッチングでは、まず加工会社のバイヤーから、残留農薬に係る条件、キュウリの種類(大きさ)、価格(他地域では NIS2.5/kg であるが、今回は NIS3.0/kg とする)等の説明があった。その後、卸売市場に販売した場合の価格や価格変動等も考慮したうえで、農家グループから希望価格の提示があった。その後、加工会社と農家グループ双方から妥協案が出されたものの、合意には至らず、実際の収穫物の品質を見るためにバイヤーが再度農家を訪問し、詳しい交



渉を進めることで合意した。

#### パレスチナにおけるビジネスマッチングにおける重要なポイント:

- ・ 事前によく準備し、交渉の目的や要点を絞ってからビジネスマッチングを行うこと。
- ・ 農家と農産加工会社が Win-Win となる解決策 を模索すること。それにより、双方が妥協する形で交渉を進めることができる。そのためには、農産加工会社側のニーズを丁寧に聞き出し、それを満たすには農家は何かができるかを考えることが重要である。
- ・ パレスチナの農家は、高価格よりも 収益の安定化 を望んでいる場合が多い。そのため、高い買取価格を引き出すこと以外にも、長期的に安定した買取価格 を目指した交渉も重要である。
- ・ 卸売市場に販売した場合との比較を行うことができるよう、事前に 市場情報を把握しておくこと が重要である。
- ・ 農家自身が農産加工会社とビジネスマッチングを手配することは困難であるため、担当する普及員がその仲介する役割を持つ必要がある。特に、県を跨いだ普及員間の広域的なネットワークを最大限に活用したマッチング先の選定 が今後のパレスチナの農業普及には必須である。プロジェクトではそれを支援していく方針である。

### ② 第3サイクル:普及ステップ2(Awareness Creation Tour:気づきの機会創出のための視察ツアー)

#### 1) 普及ステップ 2-1: Participatory Tour Planning Workshop(視察ツアー計画策定のための参加型ワークショップ)

##### ■ Al-Mughayyir Livestock Extension Group(ラマツラ県・畜産農家グループ)(2018/12/3)



前月に引き続き、ラマツラ県農業局が、普及ステップ 2-1: Participatory Tour Planning Workshop(視察ツアー計画策定のための参加型ワークショップ)を開催した。視察ツアーの行き先として、以下に示す Good Practice Farmer が選定された。

- ・ 子羊飼育の改善を図っている農家(サルフィート県)
- ・ 羊の育種技術を導入している農家(トゥルカレム県)

#### 2) 普及ステップ 2-2: Awareness Creation Tour(気づきの機会創出のための視察ツアーの実施)

第3サイクル対象の3県6農家グループに対し、普及ステップ 2: Awareness Creation Tour(気づきの機会創出のための視察ツアー)を実施した。

##### ■ Salfit Olive Farmers Extension Group(サルフィート県・オリーブ農家グループ)(2018/12/5)

#### 視察したGood Practice Farmer:

- ・ オリーブの補助灌漑により収益向上を図っている農家(ナブルス県)
- ・ オリーブの剪定により収益の安定化を図っている農家(ナブルス県)
- ・ 農業資材の共同購入によりコスト削減をしている農家グループ(トゥルカレム県)

ドラム缶を利用した補助灌漑については、その有効性について農家間で活発な議論が行われたが、自助努力により栽培技術の改善を試みている農家の事例 を見ることができた。ジェンダー配慮の観点から、視察ツアーには、男女農家が別々の車両で参加した。また、子供連れで参加した女性農家もいた。



#### 視察ツアー参加者の声:

- ・ Good Practice Farmer から多くのことを学べるので、帰りたくない。Good Practice Farmer に我々のオリーブ畑まで来てもらい、もっと技術交流を続けたい。
- ・ 栽培技術だけでなく、オリーブの販売手法を工夫している事例も見ることができた。
- ・ トウルカレム県の視察先は、組合としてコンポストを生産・販売しているが、その価格がサルフィート県より大幅に安い。早速、トゥルカレム県の農家組合から、コンポストを共同購入したい。

##### ■ Dier Ballout Women Extension Group(サルフィート県・野菜農家グループ)(2018/12/6)

#### 視察したGood Practice Farmer:

- ・ グンデリア栽培により収益を上げている農家グループ(カルキリヤ県)
- ・ 野菜天日乾燥により収益を高めている農家グループ(カルキリヤ県)

- ・ 野菜の多品目栽培と直売をしている農家(カルキリヤ県)

参加者は、これまで野草と考えていたグンデリアが栽培できることを初めて知り、非常に高い関心を示した。野菜の直売に関し豊富な経験を有する Good Practice Farmer を訪問した際には、農家グループは、伝統的に栽培している在来種野菜を販売するための方法について質問をし、生産量が少ないが味が良い在来種野菜は小売店への直売を目指すべきとの、回答を得ていた。



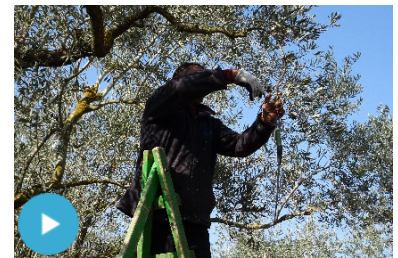
#### 視察ツアー参加者の声:

- ・ 視察したカルキリヤ県の Good Practice Farmer は、農業をビジネスとして成功させており素晴らしい。自分の息子は大学を卒業したばかりだが、将来は、この人ようになってほしい。

#### ■ Kharbatha Musbah Olive Farmers Extension Group(ラマラ県・オリーブ農家グループ)(2018/12/4)

#### 視察したGood Practice Farmer:

- ・ オリーブ栽培の省力化技術を導入している農家(サルフィート県)
- ・ オリーブの剪定技術により収益の安定化を図っている農家(サルフィート県)
- ・ 農業資材の共同購入によりコスト削減をしている農家グループ(トゥルカレム県)



兼業農家や高齢の農家が多いこともあり、省力化技術に多くのメンバーが興味を示した。また、収穫作業を担当することが多い男性は収穫機、果実の選別作業を担当することが多い女性は選別機と関心のある対象が分かれた。トゥルカレム県では、自助努力から始めた組合活動が大きなビジネスにまで展開していることについて、感嘆の声があがった。ツアー参加者は、高齢のベテラン農家が多く、新たな栽培技術を受け入れることに抵抗感があるようだったが、Good Practice Farmerと議論を進める過程で、化学肥料とコンポストの違いなど基本的な情報について理解が不足していることを認識していた。

#### 視察ツアー参加者の声:

- ・ トゥルカレム県の組合は、小規模なビジネスから自助努力によって徐々にドナーの支援を獲得するなど、成功を収めており素晴らしい。ドナーの支援を受け身で待つのではなく、まず自助努力から始めることが重要なことを学んだ。我々の村にも組合があるが、ほとんど機能していない。優良事例を見習い、我々も自助努力で活動を始めるべきだ。

#### ■ Al-Mughayyir Livestock Extension Group(ラマラ県・畜産農家グループ)(2018/12/13)

#### 視察したGood Practice Farmer:

- ・ 子羊飼育の改善を図っている農家(サルフィート県)
- ・ 羊の育種技術を導入している農家(トゥルカレム県)

参加者のうち2名は、活動対象の村ではなく、近隣の村から参加した。Facebook でツアーについて知り、参加を申し出たとのことであった。ツアー開始直後は、農家の関心が病気の治療方法に集中していたが、優良農家が家畜の衛生管理を重点的に行っていること、病気の治療には専門知識が必要で容易でないこと等がわかり、病気の治療よりも病気の予防に重点をおくべきという理解が得られた。



#### 視察ツアー参加者の声(注:ツアーの途中で政府職員が技術について長々と説明し始めた時のコメント)

- ・ 我々は、政府職員ではなく、優良農家から直接話を聞きたいと思っている。優良農家は、我々と同じ農家として同じような問題を抱えているはずであり、それをどう解決しているか直接教えてもらいたいからである。政府職員は、農家どうしの会話を邪魔しないでほしい。

#### ■ Al-Sawahreh Livestock Extension Group(エルサレム県・畜産農家グループ)(2018/12/9)

#### 視察したGood Practice Farmer:

Awareness Creation Tour を実施し、以下に示す Good Practice Farmer を視察した。ツアーには、ジェンダー配慮の観点から、男女のメンバーが別々のバス で参加した。

- ・ 子羊飼育の改善を図っている農家(サルフィート県)
- ・ 羊の育種技術を導入している農家(トゥルカレム県)



訪問したGood Practice Farmerは羊を舎飼しているが、ツアー参加農家は放牧している。環境が異なるため直ちに導入することが難しい技術もあったようだが、技術の有効性については理解が得られた。ツアー参加農家は、カルキリヤ県の優良農家が高品質の飼料をより安い価格で購入していることを知り驚いていた。

#### 視察ツアー参加者の声:

- はじめ見る技術ばかりで驚いた。我々は放牧で羊を飼育しているため環境が異なるが、工夫すれば放牧でも適用できる技術はたくさんある。
- カルキリヤ県の Good Practice Farmer が導入している品種は、放牧環境でもよく育ちそうな印象を受けた。早速グループで子羊を購入し、トライアルファームを始めたい。飼料についても、高品質でより安価な調達先があることがわかった。今後の調達先として非常に関心があるので、詳しい情報を入手したい。



#### ■ Beit Doqo Grape Farmers Extension Group(エルサレム県・ブドウ農家グループ)(2018/12/12)

#### 視察したGood Practice Farmer:

- ブドウの販売促進を行っている農家(ベツレヘム県)
- ブドウの生産技術により収益の安定化を図っている農家(ベツレヘム県)
- オリーブから核果類の栽培に切り替えた農家(ベツレヘム県)

ツアー開始当初は、参加者の関心が病害虫防除に集中した。参加者の多くは、長年ブドウ栽培に従事しており、病害虫以外は何でも知っているとの態度だった。ツアーが進行するにつれ、参加者は、Good Practice Farmerが自分たちと異なる手法で剪定を行っていることを理解し、参加者は、自分たちとは異なる様々な剪定手法について興味を新たにしようだった。



#### 視察ツアー参加者の声:

- Awareness Creation Tour に参加はしたが、実は、あまり期待していなかった(注:この農家は長年ブドウを栽培していたベテラン農家であり、自らの経験と技術に自信をもっていた)。しかし、実際にツアーに参加してみて、他農家の経験を知ることができる本ツアーは有効だと考えを改めた。

#### 普及ステップ2(Awareness Creation Tour: 気づきの機会創出のための視察ツアー)における所感:

- 参加農家と Good Practice Farmer 間で議論された内容を第1、2サイクルと比べると、今後実施する市場調査や技術研修に直接つながりそうな内容が多かった。これまでの経験を踏まえ、将来的な展開を予め予想したうえで、様々な種類の Good Practice Farmer を選定し、紹介したことが良かったと思われる。
- パレスチナでは、農家の収益性向上が、情報とネットワークの有無に依存するところが大きい。EVAP 普及パッケージも、農家と農家あるいは農家とビジネスパートナーのネットワーク構築に重きを置いた内容になっている。実際、他県の Good Practice Farmer どうしのネットワークなどから技術が普及した事例がある。プロジェクト開始当初は、プロジェクト実施側の情報が限られていたため良好なネットワークを構築することが難しい場面があったが、現在はネットワークの規模と質が大幅に向上している。

### ③ 羊飼育の改題解決のための現地調査と羊の周産期病・仔羊の飼養管理に係るファクト・シートの作成

#### 1) 羊飼育の改題解決のための現地調査

##### ■ サルフィート県及びカルキリヤ県の優良農家の視察(2018/12/9)

新生仔羊の飼養にラム・ハッチを取り入れているサルフィート県の農家と、複数種(牛、羊、ラクダ)の家畜を飼養しているカルキリヤ県の農家を訪問した。視察では、当該分野(特に衛生、飼養法及び飼料)における課題について具体的かつ有益な情報を数多く収集することができた。



当該農場で使用している Lamb Hatch

##### ■ サルフィート県の肉用羊牧場の視察(2018/12/11)

第3サイクル対象県における、畜産の現場を視察するため、サルフィート県農業局普及員の案内で、県内の肉用羊牧場2ヶ所を訪問した。いずれも過去に流産などの問題が発生していたが、ワクチンや抗生物質の接種といった対策を取ることで、現在では特に大きな問題は起きていない。2件目に訪れた牧場では、仔羊の飼養にクリープ・フィーディング

(子羊だけが出入りできる囲いを設けて、まだミルクを飲んでいる子羊に固形飼料を食べさせ、固形飼料の消化機能の発達を促す方法)など、特徴のある取り組みを実施しており、他の畜産農家にとっても参考になり得ると考えられた。

### ■ サルフィート県及びトゥルカレム県の優良農家の視察(2018/12/13)

エルサレム県畜産グループと同様にサルフィート県の優良農家とトゥルカレム県の畜産農家を訪問した。トゥルカレム県の畜産農家は200頭規模の牧場であり、規模が大きく、ソーラーパネルや自動給乳機の導入など、様々な取り組みを試している様子が伺えた。また、餌についても小麦、大麦、コーン、大豆の配合を工夫して独自に濃厚飼料を調整しており、参加農家にとって有意義な視察になったことと推察される。



自動給乳機からの授乳

## 2) ファクト・シートの作成

### ■ 羊の周産期病に関するファクト・シート

羊の周産期感染症に係る一覧表(原因、感染経路、主要な症状、疫学的特徴、そしてその対策)を作成済みで、そこに記載した11感染症について、その詳細を一疾病毎のファクト・シートとしてまとめた。それぞれに写真や図を加え、表にまとめた内容をより詳しく、予防法、治療法、ラボ診断用のサンプルについても明確に記載した。



仔羊の飼養スペースの床をメッシュ(金網)にすることにより、糞尿が下に落ちる構造となっている。右写真右上に見える青い機械が自動給乳機である。



飼養する羊が周産期に死産や新生仔死に直面した場合、農家はまず表から発生状況が似ている感染症を探し、それについての詳細をファクト・シートにて確かめることができるようになった。作成した疾病は以下の通りである：①トキソプラズマ病、②Q熱、③クラミジア症(流行性羊流産)、④クリプトスポリジウム症、⑤仔羊の大腸菌感染症(watery mouth)、⑥羊痘、⑦マイコプラズマ症(伝染性無乳症)、⑧ブルセラ病、⑨ブルータンク、⑩仔羊赤痢、⑪白筋症。

飼養する羊が周産期に死産や新生仔死に直面した場合、農家はまず表から発生状況が似ている感染症を探し、それについての詳細をファクト・シートにて確かめることができるようになった。作成した疾病は以下の通りである：①トキソプラズマ病、②Q熱、③クラミジア症(流行性羊流産)、④クリプトスポリジウム症、⑤仔羊の大腸菌感染症(watery mouth)、⑥羊痘、⑦マイコプラズマ症(伝染性無乳症)、⑧ブルセラ病、⑨ブルータンク、⑩仔羊赤痢、⑪白筋症。

### ■ 仔羊の飼養管理に係るファクト・シート

パレスチナにおいては、特に冬季に羊の周産期病が多発する傾向にあり、流産、仔羊の大量死などが問題となっている。羊は季節性の動物であるため秋口から繁殖期が始まり、丁度寒い時期と妊娠・出産が重なることもひとつの要因となっている。上述したファクト・シートにおいては、発生後の対策を中心としてその内容をまとめたが、飼養管理に係るファクト・シートでは、周産期における感染症予防、特に新生仔死予防に焦点を当てたファーム・マネジメントに係る情報をまとめている。その内容は：①初乳、②消毒、③ラム・ハッチ、④クリープ・フィーディング、の4点である。

## ④ パレスチナ政府の普及活動におけるEVAP普及パッケージの「ふつう化」のための支援

### 1) パレスチナ政府の自己資金によるEVAP普及パッケージの実施状況のモニタリング

2018年12月末時点でのパレスチナ政府の自己資金によるEVAP普及パッケージの継続状況は、次表のとおりである。

農業局	政府自己資金による普及活動の対象農家グループ	EVAP 普及パッケージの普及ステップ実施進捗(2018-2019年)								
		1	2-1	2-2	3-1	3-2	4	5	6	7
ジェリコ	Auja Livetsock Extension Group	4/2	4/9	4/26	5/10	6/28				
	Marj Na'jeh Farmers Extension Group	4/5	4/26	5/10	6/28	8/31	9/13	11/29		
ナブルス	Beit Hasan Farmers Extension Group	5/3	7/10							
	Jama'een Farmers Extension Group	5/10	5/30	7/17	8/6	9/18				
	Beit Foreek Livetsctok farmers s extension group	8/1	8/28	9/20						
	Tell Women Farmers Extension Group	7/2	7/12	8/14	10/10					
トゥバス	Kardala Women Farmers Extension Group	7/2	7/9	8/28	9/3	9/18				
	Akaba Men and Women Farmers Extension Group	7/5	8/1	8/15	8/30	10/14				
カルキリヤ	Jensafout Women Extension Group	4/25	6/27	7/25	9/6	9/25	12/13			
	Qalqilia and Al-Naby Ilyas Farmers Extension Group	4/19	6/28	7/19	10/15	10/25				
トゥルカレム	Ateel Women Extension Group	5/10	6/27	7/19	10/2					
	Thenabeh Farmers Extension Group	5/14	6/28	7/31	9/27	10/24				
ジェニン	Al-Jalameh Farmers Extension Group	4/15	9/2	9/26						
	Al-Jalameh Women Extension Group	4/15	9/2	9/26						



## 2) EVAP 普及パッケージの「ふつう化」における課題と対策の検討

### ■ 課題

プロジェクトでは、これまで県農業局が自己予算を使用して活動を継続できるように支援してきた。県農業局は経費処理の経験を十分に持っていなかったため、これまでプロジェクトでは計3回の経費処理に係る説明会を開催し、調達マニュアル、業務分掌および決裁プロセスを示す文書、チェックリスト等を、県農業局に対して説明してきた。しかし、2018年11月末時点で、経費処理手続きが進まず、交通費や農民の軽食費等、民間業者への支払いが大幅に遅延していた。

### ■ 対策

農業庁と問題意識を共有するために、支払情報を収集・集計し、普及総局長にデータで示した(右表)。主な内容は、次のとおりである。なお、経費精算の方法として、1)請求書による支払いと 2)小口現金制度(1件500NIS未満に適用可)の2種類がある。

表 県農業局毎の請求書支払い率

DOA	支払済み	未払い	状況不明	合計	支払率(%)
ジェニン		1	5	6	0%
ジェリコ	16	9	1	26	62%
ナブルス	2	6		8	25%
カルキリヤ	3		8	11	27%
トゥバス		3	4	7	0%
トゥルカレム	2		4	6	33%
合計	23	19	22	64	36%

- 2018年12月6日時点で、支払い64件のうち、支払いが行われたものは36%(支払率)であった。
- 小口現金(普及・地域開発総局長が財務総局長から小口現金の仮払いを受け、そこから支出する制度)の支払率は81%で比較的高かった。より多くの精算書類が必要とされる500NIS以上のレンタカーと農民の食事代の請求書支払率は、それぞれ、5%、6%のみであった。
- プロジェクトで収集した全ての請求書(64件)のうち、36%ほどについては、承認を行う財務総局内で書類が散乱して手続きが滞っており、データ収集の期間中、支払状況を確認できなかった。財務総局における書類管理にも問題があることがわかった。

以上の状況を踏まえて、普及・地域開発総局長は財務総局長と協議し、財務総局から各県農業局に対し、書類不備の内容を説明したレターを発送し、書類の再提出を指示した。同レターによると、バスとレストランの支払いに必要である、業者登録証、通関証明書、税控除証明書、付加価値税証明書に関して書類不備が生じている。レター発出の結果、2018年12月末時点で、小口現金の精算書類はすべて財務総局に提出された。バス、レストランについては、再提出された書類にもいまだ誤りがあるため、プロジェクトでは財務総局と協力しながら県農業局毎に個別に指導を行った。

9県農業局において、2019年度のEVAPの活動継続のための活動予算が確保されている(合計183,150NIS)。今年度の経験をふまえ、経理処理を簡素化できないか財務総局に制度の変更を依頼した。実際の状況を踏まえると、小口現金制度は精算書類が少ないため、この仕組みを以下のとおり修正して適用範囲を拡大することで手続きを簡略化させる可能性があることを確認した。仕組みを変更するには、農業庁大臣の承認が必要で、プロジェクトでも承認に向けてフォローしていく予定である。

**修正点①:**必要書類が少なく、支払い率が比較的高い小口現金制度の1件あたりの上限額を500NISから1,000NISに上げるように制度を変更してもらうことで、EVAP普及パッケージの実施に係るほぼすべての支出を小口現金でカバーできるようにする。

**修正点②:**これまでは財務総局から普及・農村開発総局長(中央レベル)に小口現金を供与したが、承認を行う財務総局で書類が滞る状況があった。そこで、県農業局の局長に権限を移譲し、県単位で承認・管理できるようにする。

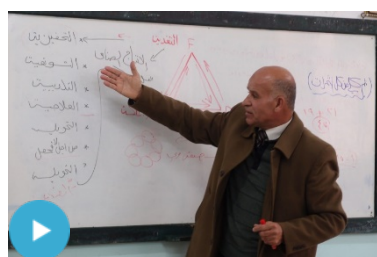
## ⑤ 第2サイクル:普及ステップ6(Extension Activities for Farming Improvement: 営農改善のための技術研修)

市場情報を踏まえて農家グループ自身が策定した技術研修計画に基づき、以下の研修を実施した。

### 1) 養蜂技術研修

#### ■ Seida Cooperative Association for Processing and Marketing of Rural Products(トゥルカレム 県・野菜農家グループ)(2018/12/10)

農家の関心が高いピックである給餌に焦点を絞り、主に餌の種類(液体・半個体・個体)、



季節ごとの給餌の目的と方法の違い、年間給餌スケジュール等の技術研修を実施した。参加した農家からは、季節に応じて餌の種類を変える技術を初めて知り、早速その手法を導入したいという意見が挙げられた。

#### 養蜂技術研修の内容:

- 導入
- 餌の種類(液体の餌、半固体の餌、個体の餌)
- 給餌スケジュール(春の給餌、夏の給餌、秋の給餌、冬の給餌、滋養のための給餌)



#### ⑥ Good Practice Farmer 紹介ウェブサイトの開発とマスメディア部職員に対する技術移転

プロジェクトで開発した Good Practice Farmer 紹介用ウェブサイトを、情報通信技術庁担当者および農業庁 IT 担当者と共同で、パレスチナ政府ウェブサーバーに移管した。移管後の URL を、以下に示す。普及・地域開発総局のウェブサイトからも訪問できるよう、Good Practice Farmer 紹介ウェブサイトへのリンクを張った。また、同ウェブサイトの更新作業を担当する普及・地域開発総局のマスメディア部職員を対象に、ウェブサイト更新に関する実習を実施した(2018/12/17)。今後は、マスメディア部が同ウェブサイトの更新と管理を行っていく予定である。なお、一部に不具合があるので、プロジェクトでは、改善とトレーニングを継続していく予定である。

<http://www.ershad.moa.pna.ps/EVAPdatabase/GPF/AR/index.html>(西岸地区)

<http://www.ershad.moa.pna.ps/EVAPdatabase/GPF/AR/Gaza.html>(ガザ地区)